

冬 ~Winter~

平成19年度 韓国ジョンバル高校交流事業 活動報告



韓国、仁川空港到着後のロビーにて、熱烈な歓迎を受けました。

平成19年12月17日～20日、引率教員3名、代表生徒23名（中学生3名、高校生4名）で、韓国ジョンバル高校を訪問してきました。正式に姉妹校の提携を結んだ昨年以降、今回が二度目の訪問になります。現地での交流会、授業体験、観光などの様子を報告します。

<日程>

月日	時間	日程	
12月17日(月)	午前 15:30 18:00	・秋田空港へ。出国手続き後、一路ソウルへ向けて出発。 ・仁川空港着。専用バスでジョンバル高校へ。 ・ジョンバル高校着後、ホストファミリーとの対面式。 ・各ホストファミリー宅へ。	 仁川空港にて。ジョンバル高校生徒会長より花束の贈呈。
18日(火)	午前 9:00 午後 17:30	・ジョンバル高校集合 ・交流会（両校校長あいさつ、学校紹介、韓国・日本の文化紹介） ・授業体験（英語、数学、日本語） ・昼食（ジョンバル高校の給食） ・両校生徒会合同で観光（都羅山展望台、第3トンネル等） ・ジョンバル高校帰着後、各ホストファミリー宅へ ・ジョンバル高校集合後、市内観光へ。（ワールドカップ、サッカー競技場、景福宮、歴史博物館、南大門、ロッテワールド等）	 数学の授業体験
19日(水)	8:30 終日	・ホテル泊	 景福宮見学
20日(木)	5:40 6:10 8:00	・ホテル発 ・レストランで朝食後、朝市へ ・仁川空港着。出国審査後、一路帰国の途へ。	

<韓国訪問を終えて(生徒の感想文より)>

「隣国をみつめて」

中学校3年女子

今回の韓国訪問では、思っていた以上に、心に残るたくさんの経験ができました。初めての海外で、最初は不安もありましたが、この訪問をきっかけとして国際交流にもっと興味をもつようになりました。

韓国に着いてからは驚きの連続で、それを最初に実感したのは、二泊三日のホームステイでした。ホストファミリーと一緒にご飯を食べに行ったとき、日本にいるのと同じように正座をしたら驚かれました。韓国では正座をするのは叱られるときだけだそうです。私は思わず「なるほどなあ」と感心してしまいました。その後、日本人留学生のサキさんと、韓国のショッピングモールに行きました。韓国は、日本に比べて物価が安く、驚きました。衣服や食品などが、どれも手ごろな価格で手に入りました。

次の日はジョンバル高校との交流会があり、日本語の授業に参加しました。教室はとてにぎやかで笑いが絶えませんでした。このときは自分の誕生日を話すというのがメインのスキットでした。周りの人達に日本語の読み方を教えるのはとても大変でしたが、たくさん話していくうちに気持ち通じてきているなと感じました。授業が終わってからも、会話を呼んでくれた人もいて嬉しかったです。あっという間に時間は過ぎ、いざジョンバル高校を出発するときには、本当に寂しかったけれど、たくさんの思い出ができました。

韓国ではたくさんの場所を観てきました。その中で印象に残っているのはドラ山です。ここでは望遠鏡を通して北朝鮮を見ました。韓国と北朝鮮の間にはまだまだ癒えることのない傷があることを痛感させられました。

今回の韓国訪問は、隣国のことを知る良い機会になりました。これからもこのような交流が続いてほしいと思いました。

「異文化理解」

高校2年女子

今回の研修は、私にとって初めての海外だったので、多少の不安やとまどいはありましたが、すばらしい経験をたくさんすることができました。

私が一番印象に残っているのは、二日間のホームステイです。私は七月に自分の家にホームステイしたダソムの家に泊まりました。ダソムとはずっとメールのやりとりをしていたので、彼女の家に泊まると聞いたときは、すごく嬉しかったです。ごく限られた語学力で家族と話す苦労は予想以上のものでした。たくさんの感謝の気持ちを伝えたいのに、上手く韓国語で表現できず、もどかしい思いをしました。しかし、伝わったときの達成感やジェスチャーを通しての会話で得たものは、とても大きかったと思います。どれも日本ではできない経験ばかりでした。そして、ダソムの家族も私のために一生懸命に日本語を話してくれて、その心遣いに心が温まりました。また、お母さんが作ってくれた料理はびっくりするほどおいしかったです。「韓国の食べ物はずべて激辛」という固定観念を持っていた私でしたが、主なおかずは全然辛くなくて、体に良さそうな食べ物ばかりでした。

私が韓国研修に行って学んだことの一つを紹介します。それは、竹島問題についてです。研修二日目の夜、私は友達の家でホームステイ先の生徒と話す機会がありました。私は彼女から「竹島はどっちの国のものだと思う？」と聞かれました。私はどう答えたらいいいのか迷いました。日本のものだと答えれば彼女が怒ってしまうかもしれないし、韓国のものだと答えたとしても、その根拠は全くなかったからです。だから、私は彼女に聞き返しました。彼女の答えは、私には決して思いつけないものでした。それは、竹島を日本と韓国で共有したら良いのではないかと、という考えです。「仲良く分け合えばいいのに、どうしてそんなことでケンカしているのかわからない」と彼女は言いました。私はその言葉に感動しました。もちろん、竹島問題はそんなに簡単な方法で解決できる問題ではありません。けれど、私は彼女の考えに共感しました。そして、彼女が日本と仲良くしたい、と思ってくれていたのが何よりも嬉しかったです。

ジョンバルの生徒たちやお世話になった家族と別れるのは、つらいものがありました。たった二日間の交流だったけれど、一生の思い出をたくさんもらいました。

この研修を通して、私の異文化に関する視野が大きく広がったように思います。自分の国の視点からだけでなく、韓国側の視点からのものを見ることができたからなのかもしれません。それが異文化理解の第一歩ではないかと思いました。私たちが大人になったときにこの経験が日韓関係の緩和につながるように、これから努力していきたいです。

最後に、先生方をはじめ、この研修に参加させてくださった両親や県の方々にはとても感謝しています。どうもありがとうございました。

<交流風景>



1日目。仁川空港よりジョンバル高校へ。



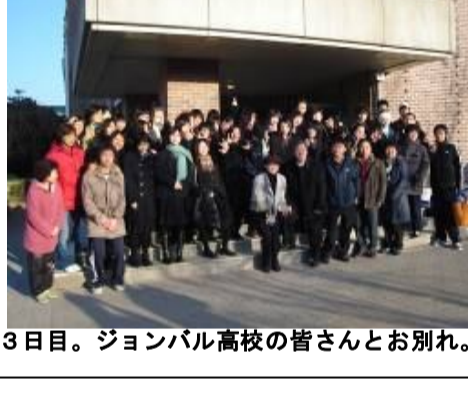
ホストファミリーとの対面式



ジョンバル高校玄関にある「清陵コーナー」



2日目。交流会で校歌を斉唱。



ジョンバル高校生による伝統音楽の演奏。



韓国と北朝鮮の境にある非武装中立地帯へ。



3日目。ジョンバル高校の皆さんとお別れ。



韓国最後の夜。ロッテワールドにて。